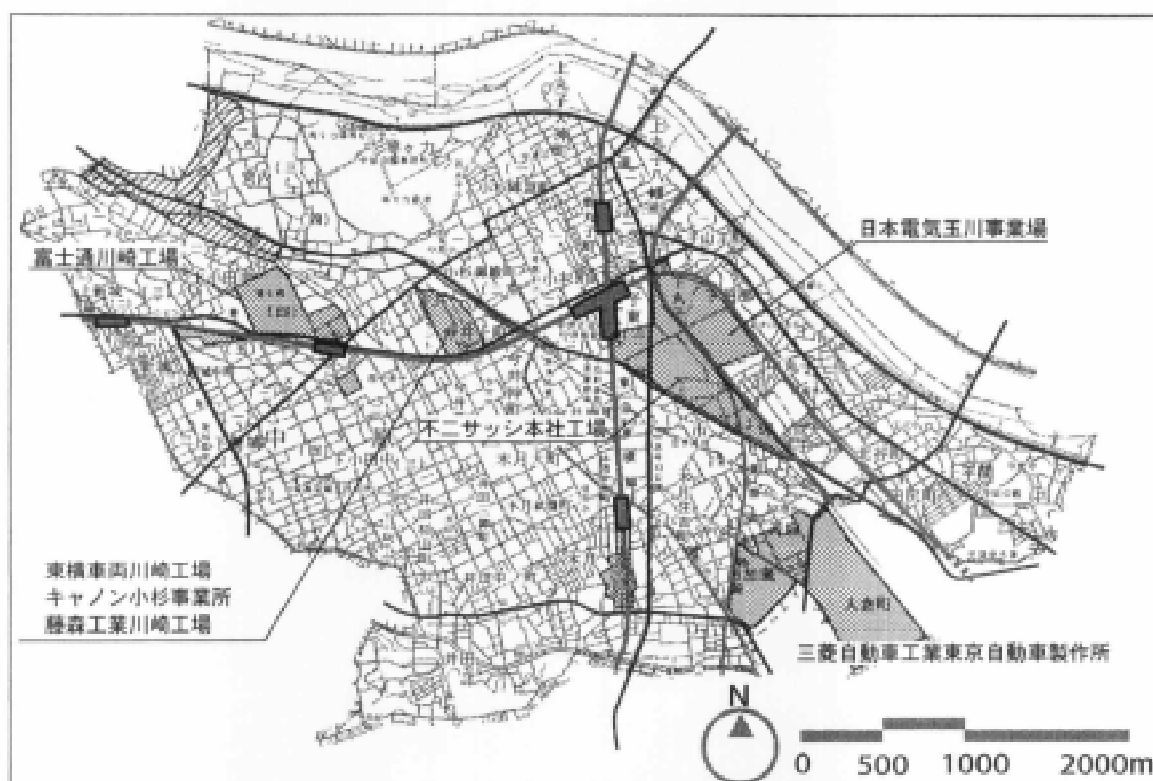


- ・さらに、中原区における工場用地の分布状況をみると、企業が、まとまった土地を工場用地として利用している場合が多く、大倉町、西加瀬、今井上町、上小田中4丁目のほとんどの地域や、上丸子、中丸子、下沼部、市ノ坪の一部に大規模工場が立地している状況にあります。これらの大規模工場用地は、中原区全体面積の1割程度を占めています。
- ・また、大規模工場とは別に宮内周辺では住宅地と小規模工場が混在している状況にあり、この工場の集積は、多摩川沿いから区境に沿って、府中街道、二ヶ領用水付近の地域にまで伸びています。

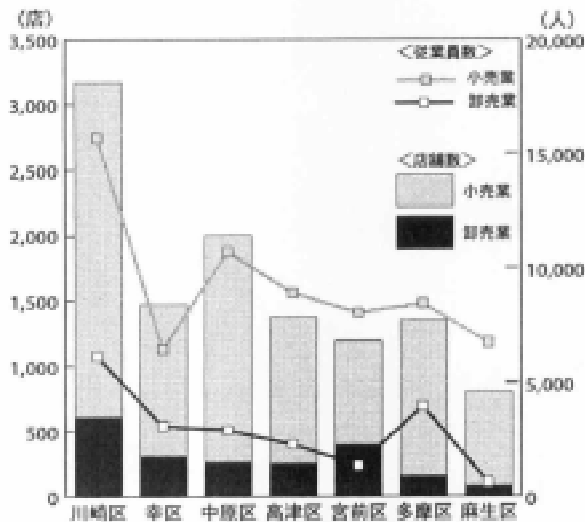
■中原区における工場用地の分布状況



4. 商業

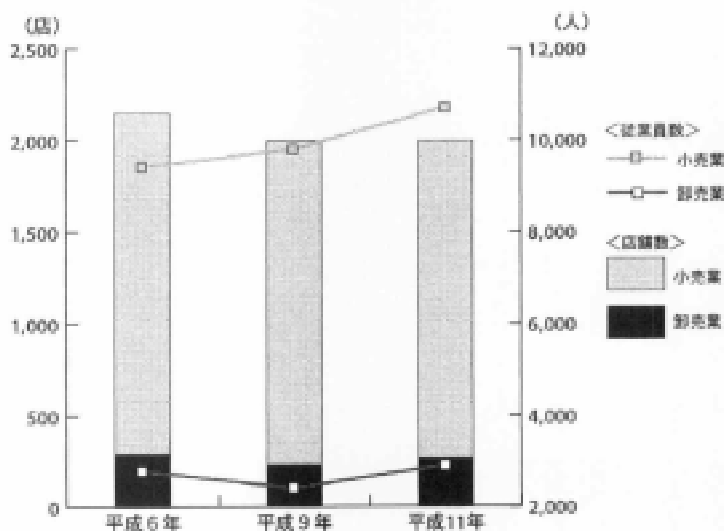
- ・ 中原区の卸売業、小売業を合わせた商店数、従業員数を他区と比較すると、ともに川崎区に次ぐ2番目の規模となっていますが、小売業店舗数は年々わずかな減少傾向を示しています。
- ・ また、従業員数では、卸売業、小売業とも増加傾向にあるのに対して、年間商品販売額の推移をみると、卸売業では増加傾向、小売業ではわずかな減少傾向がみられます。

■各区商店数・従業員数



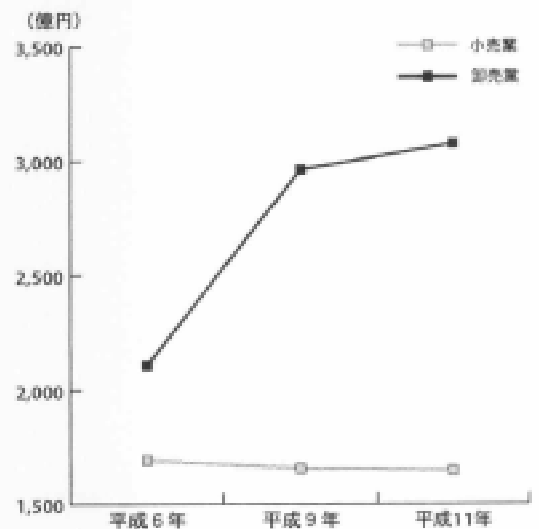
資料：平成11年川崎市商業統計
総合企画局企画部統計情報課

■商店数・従業員数の推移



資料：川崎市商業統計
総合企画局企画部統計情報課

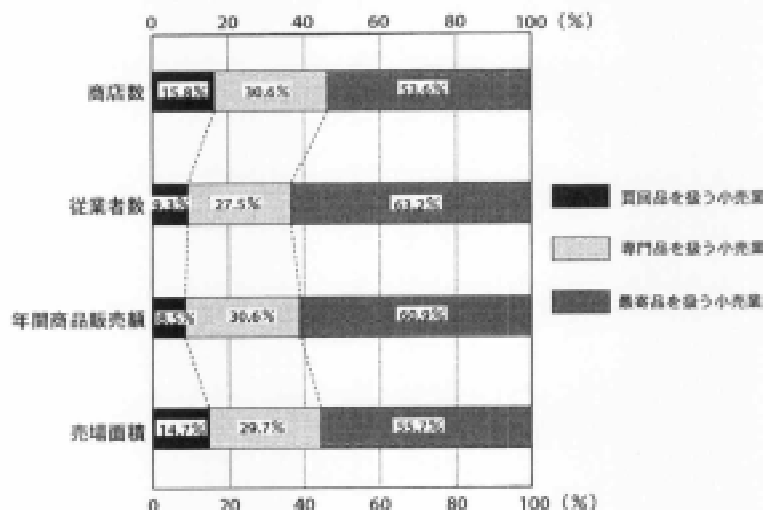
■年間商品販売額の推移



資料：川崎市商業統計
総合企画局企画部統計情報課

- ・さらに、取扱い品目別の小売業の状況を見ると、商店数・従業者数・年間商品販売額・売場面積すべてにおいて、最寄品を扱う業種の構成比が5～6割程度を占め、中原区の商店は地域に密着した商品を主に扱っていることがうかがえます。

■小売業における取扱い品目別商店数・従業者数・年間商品販売額・売場面積の構成比



※小売業の分類のうち、百貨店・その他の各種商品小売業は除いたもの。

資料：平成11年川崎市商業統計
総合企画局企画部統計情報課

■中原区の産業分類別商店数・従業者数・年間商品販売額及び売場面積（平成11年）

(単位：100万円・平方メートル)

産業分類	商店数		従業者数		年間商品販売額		売場面積	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
総数	1,994	100.0	12,218	100.0	461,842	100.0	124,952	100.0
卸売業計	228	11.4	2,415	19.8	296,296	64.2	-	-
小売業計	1,766	88.6	9,803	80.2	165,547	35.8	124,952	100.0
買回品を扱う小売業	278	13.9	871	7.1	12,752	2.8	16,359	13.1
各種商品衣料品小売業	214	10.7	672	5.5	10,199	2.2	12,912	10.3
身回品小売業	64	3.2	199	1.6	2,553	0.6	3,447	2.8
専門品を扱う小売業	540	27.1	2,564	21.0	45,870	9.9	33,145	26.5
最寄品を扱う小売業	945	47.4	5,892	48.2	91,443	19.8	62,129	49.7
各種食料品小売業	39	2.0	907	7.4	20,064	4.3	8,373	6.7
一般食料品小売業	671	33.7	3,911	32.0	51,109	11.1	38,749	31.0
雑貨小売業	235	11.8	1,074	8.8	20,270	4.4	15,007	12.0
その他	3	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
百貨店	2	0.1	X	-	X	-	X	-
その他の各種商品小売業	1	0.1	X	-	X	-	X	-

※小売業の分類は以下のとおりである。

【買回品】

- 各種商品衣料品・・・洋服・服地・寝具小売業、男子服小売業、婦人・子供服小売業
- 身回品・・・靴・履物小売業、その他の織物・衣服・身の回り品小売業

【専門品】

- 専門品を扱う小売業・・・書籍・文房具小売業、2F用品・がん具・娯楽用品・楽器小売業、写真機・写真材料小売業
- 時計・眼鏡・光学機械小売業、中古品小売業、自動車小売業
- 家具・建具・畳小売業、家庭用機械器具小売業、他に分類されない小売業

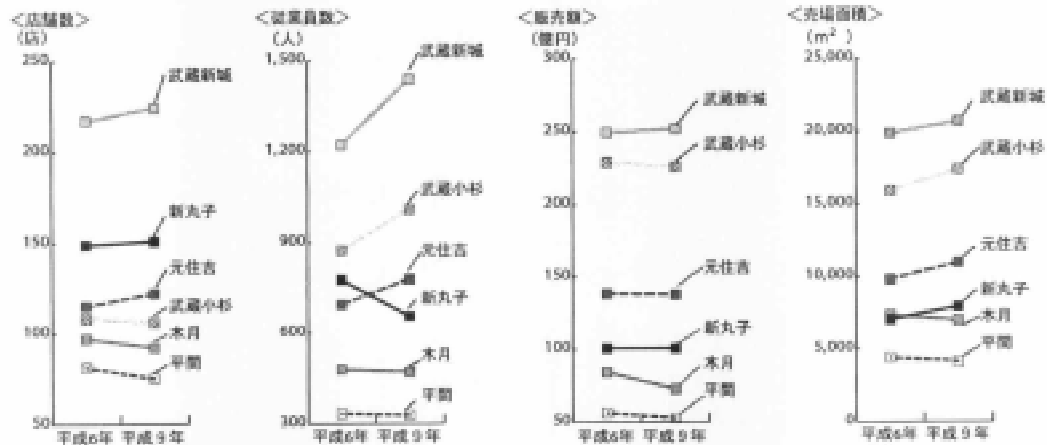
【最寄品】

- 一般食料品小売業・・・酒小売業、食肉小売業、鮮魚小売業、乾物小売業、野菜・果実小売業
- 菓子・パン小売業、米穀類小売業、その他の飲食料品小売業
- 自転車小売業、金物・貨物小売業、陶磁器・ガラス器小売業
- 雑貨小売業・・・その他のじゅう器小売業、医薬品・化粧品小売業、農耕用品小売業、燃料小売業

資料：総合企画局企画部統計情報課

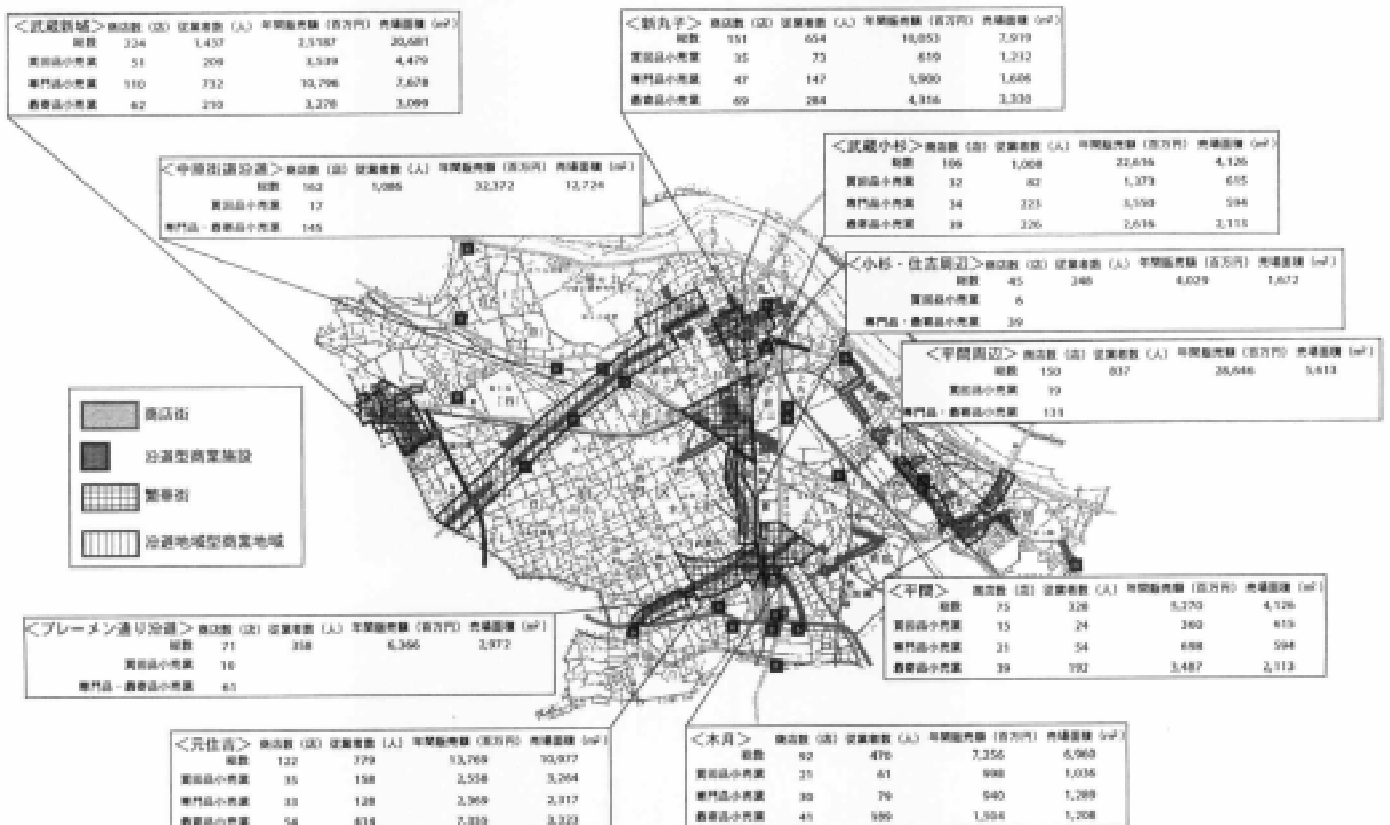
- ・ 中原区における商店街、繁華街の分布状況をみると、鉄道駅を中心とした武蔵小杉などの商業集積と、幹線以外の道路沿いに発展した商店街の2つにより構成されていることが特色としてあげられます。
- ・ 繁華街については、武蔵新城が店舗数・従業員数・販売額・売場面積において最も規模が大きく、次いで販売額などから武蔵小杉、元住吉の順になっています。
- ・ 取扱品目をみると、商店街、繁華街ともに、最寄品を扱う店舗が多い状況がうかがえます。

■ 繁華街の状況



資料：川崎市商業統計
総合企画局企画部統計情報課

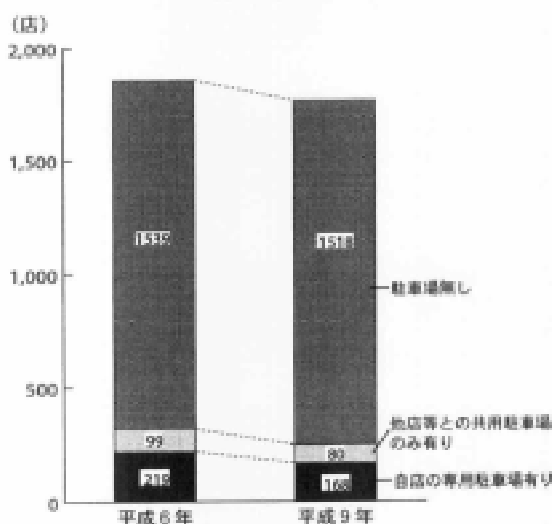
■ 中原区における商店街と繁華街の分布状況



※注：地域型商業地域のデータは沿道の町丁別のそれを合わせたものを掲載した。
資料：川崎市の繁華街、川崎市商業統計
総合企画局企画部統計情報課

- ・ 中原区における来客用駐車場を持っている商店数の推移をみると、平成9年では、平成6年と比べ駐車場がない店舗数の割合がわずかに減少しています。
- ・ さらに、駐車場保有商店数を他区と比較すると、宮前区や多摩区など、比較的沿道型商業施設の立地が進んでいる区に比べて少ないことから、車を利用した買い物の機会は、比較的少ない区と考えることができます。

■来客用駐車場の有無別商店数の推移



資料：川崎市商業統計
総合企画局企画部統計情報課

■来客用駐車場の有無別商店数（区別）

(平成9年)

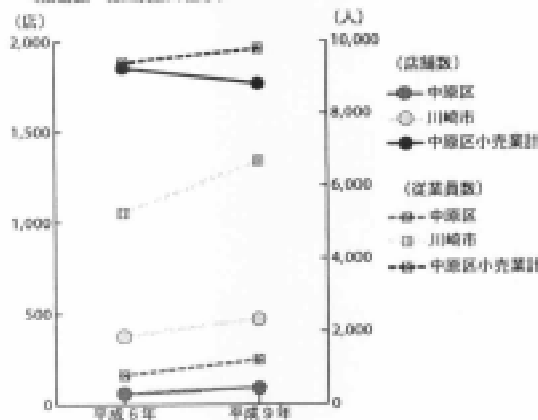
区別	小売業 商店数	専用駐車場有り								共用駐車場のみの有り		駐車場 無し 商店数
		保有 商店数	保有率 %	収容台数 #	1店あたり 収容台数 #	専用駐車場収容台数規模別商店数				保有 商店数	保有率 %	
						1～9台	10～29台	30～49台	50台以上			
総数	9,104	1,320	14.5	11,726	8.9	1,102	144	31	43	860	9.4	6,924
川崎区	2,561	121	4.7	1,252	10.3	100	14	1	6	402	15.7	2,038
幸区	1,178	117	9.9	959	8.2	104	10	1	2	21	1.8	1,040
中原区	1,766	168	9.5	966	5.8	145	16	3	4	80	4.5	1,518
高津区	1,064	252	23.7	1,593	6.3	211	31	6	4	54	5.1	758
宮前区	779	237	30.4	2,725	11.5	190	30	3	14	86	11.0	456
多摩区	1,164	251	21.6	1,505	6.0	217	21	9	4	78	6.7	835
麻生区	592	174	29.4	2,726	15.7	135	22	8	9	139	23.5	279

資料：川崎市商業統計
総合企画局企画部統計情報課

- ・コンビニエンスストアの進出状況についてみると、中原区全体の小売業が店舗数・販売額で減少傾向にあるのに対し、店舗数・従業員数・販売額・売場面積すべてにおいて増加傾向にあります。しかし、コンビニエンスストアは、店舗数の規模からみれば、小売業全体の3%弱のシェアしかもっていません。
- ・また、大規模小売店についても、店舗数・従業員数・販売額・売場面積とも増加傾向にあり、小売業に占める割合も同じく増加傾向にあります。小売業に占める大規模小売店の割合をみると、販売額では（平成9年）24.3%、売場面積では31.1%。

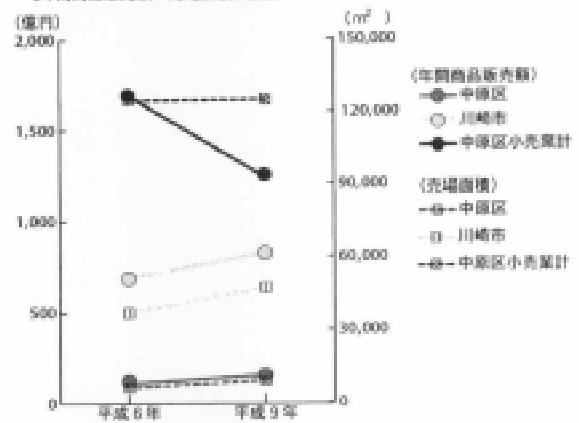
■コンビニエンスストア進出の推移

<店舗数・従業員数の推移>



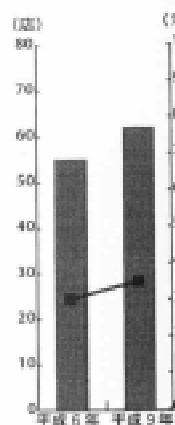
資料：川崎市商業統計
総合企画局企業部統計情報課

<年間商品販売額・売場面積の推移>

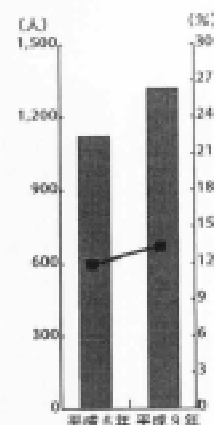


■大規模店舗内商店の状況

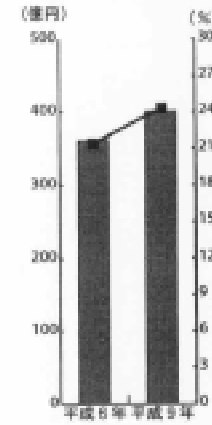
<店舗数・小売業に占める割合>



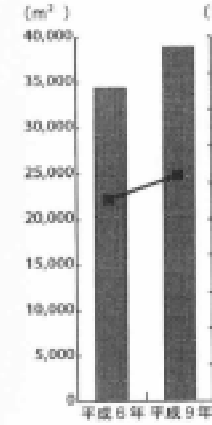
<従業員数・小売業に占める割合>



<販売額・小売業に占める割合>



<売場面積・小売業に占める割合>



■ 実数
— 小売業に占める割合

資料：総合企画局都市政策部統計情報課